

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	139人	算数	139人	理科	139人
第5学年	国語	132人	算数	132人	理科	132人

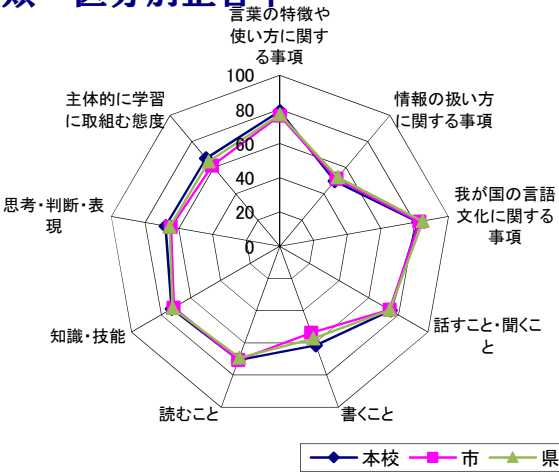
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.0	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	49.9	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	82.2	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	74.8	74.1	74.2
	書くこと	61.4	53.7	57.2
	読むこと	70.6	70.7	69.2
観点	知識・技能	73.0	71.6	72.3
	思考・判断・表現	67.8	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	67.1	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

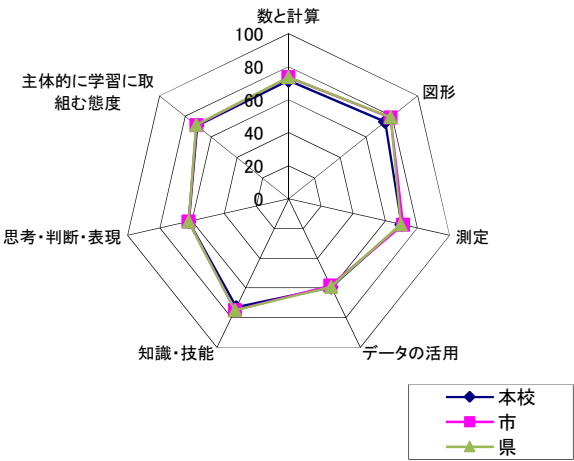
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○この領域の平均正答率は県の平均を2ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きについて、「都合」を読む問題の正答率が68.1%だったのを除いて、85.9%から94.8%の正答率であった。 ●ローマ字を読む問題の正答率は46.7%で、県平均の57.4ポイントを下回った。	・ローマ字については、ワークシートやAIDリルなどを活用し、繰り返し学習することで身に付けられるようにする。漢字の読み書きについては、これまでの学習を継続し、漢字練習だけでなく文章の中で使えるような課題を工夫し、定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	●この領域の平均正答率は県の平均を2.8ポイント下回っている。 ●中心となる語や文を見つける問題や書き方の例を参考に必要な情報を読み取って書く問題の正答率は、県の正答率と同程度ではあったが、いずれも50%以下であった。	・2つの文を比べて読む単元の中で、2つの文章の同じところと違うところを根拠を明らかにして読み取り、読み取ったことを端的に表す学習を積み重ねていく。その中で、必要な情報を的確に読み取ったり、情報と情報の関係を整理したりする力をつけていく。
我が国の言語文化に関する事項	●この領域の平均正答率は県の平均を2.5ポイント下回っている。 ○漢字のへん、つくりに関する正答率は82.2%でおおむね理解しているものの、県平均を下回った。	・漢字学習の際、漢字の構成を意識できるよう指導する。
話すこと・聞くこと	○この領域の平均正答率は市の平均と同程度である。 ○自分の考えを相手に伝えるように理由を挙げながら話す問題の正答率は77.8%で、県平均より6.6ポイント高かった。	・今後もこれまでの学習活動を継続して行っていくとともに、学級活動等の話し合い活動の機会も活用しながら、話す・聞くことについての学びを深めていく。
書くこと	○この領域の平均正答率は市の平均を7.7ポイント上回っている。 ○集めた材料から書くべきことを選ぶ問題の正答率は48.1%で、県の正答率より12.7ポイント高かった。また、自分の考えを二段落に分けて書くという条件の正答率は62.2%で、市の平均より6.9ポイント高かった。	・作文指導では、引き続き、構成を意識しながら書き進められるような指導を行っていく。文章の書き方の型を提示して一つの方法を体得させつつ、応用できるような力を伸ばしていく。
読むこと	○この領域の平均正答率は市の平均と同程度である。 ○物語文についての正答率は、いずれも80%以上であり、おおむね身についているといえる。 ●説明文の正答率はいずれの問題も県平均よりやや低く、文章の大体の内容は捉えられているものの、段落ごとの内容や中心となる語句を捉えるといったことに課題がある。	・説明文の学習では、時間や順序を表す言葉、指示語の内容、中心文や中心語句などを的確に読み取る学習を積み重ねていく。また、読み取ったことを基に文字数や段落数に条件をつけて要点をまとめる学習を行っていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.7	73.5	73.6
	図形	74.8	79.0	79.1
	測定	70.2	71.1	69.8
	データの活用	59.5	58.4	59.2
観点	知識・技能	73.0	75.0	75.0
	思考・判断・表現	62.0	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	71.0	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

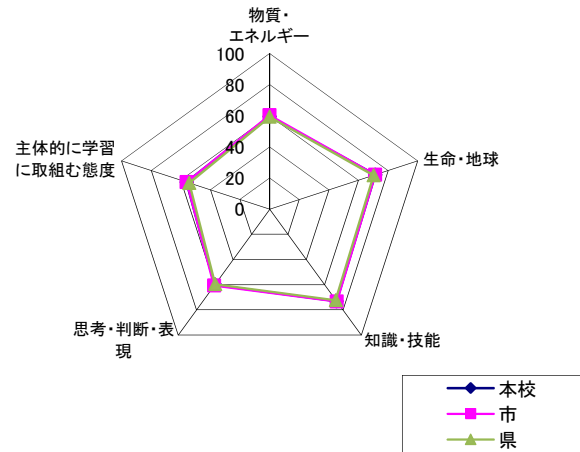
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○この領域の正答率は県の平均より1.9ポイント下回っている。 ○小数の仕組みや大きさ、真分数のたし算、文章問題から適切な除法の式を選ぶ問題についての正答率は、いずれも85%以上で、ほぼ理解しているといえる。 ●かけ算のひっ算に出てくる数字の意味を問う問題の正答率は33.3%、整数ー小数の計算の正答率は42.2%である。また、分数の数直線上の表し方や1/6がいくつ集まると1になるかの正答率も県平均より低かった。	・かけ算、わり算、分数については、児童が自分の考えを説明する時間を十分確保する。その際、図や数直線などに関連づけることで理解を深められるようにする。
図形	○この領域の正答率は県の平均より4.3ポイント下回っている。 ○正三角形の作図の正答率は85.2%でほぼ理解されている。 ●球の半径から、球が1つ入った箱の辺の長さを求める問題の正答率は64.4%で、県平均より8.8ポイント低かった。	・球の半径がどの部分を指すのか、具体物を使って理解できるようにし、球が入っている箱との関係を考えさせる。
測定	○この領域の正答率は県の平均と同程度である。 ○道のりの意味についての正答率は86.7%で、ほぼ理解されている。 ●単位の前に「k」がつくと、元の単位の1000倍になることを説明する問題の正答率は57.8%であった。市の平均より2.8ポイント高かったものの理解が十分とは言えない。	・時間や長さ、重さについては自分ではかったり、図にしたりするなどの活動を通して、実感を伴った理解ができるよう工夫するとともに、生活の中で生かせるよう意識づけを図っていく。
データの活用	○この領域の正答率は県の平均と同程度である。いずれの問題の正答率も70%に達しなかったもので、更に理解を深められるようにしたい。	・グラフの読み取りについては、1メモリの大きさの読み取り方を確実にした上で、グラフの読み方を身に付けるようにする。また、複数のグラフを比べるとどんなことが読み取れるか、根拠を明らかにして話し合うことで、様々な見方ができるようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.4	60.2	59.2
	生命・地球	71.3	71.3	70.3
観点	知識・技能	73.1	73.4	72.3
	思考・判断・表現	60.0	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	56.1	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○この領域の平均正答率は市の平均と同程度である。 ○磁石がものを引きつける力は、磁石と物の距離によって変わることを推測する問題は、市の正答率より5.6ポイント上回っている。 ○電気を通すものと通さないものの理解を問う問題、風の強さと車の動く距離の関係を試験結果から推測する問題の正答率は90%を上回っている。 ●容量の大きい飲料の容器にプラスチックが利用されている理由を実験の結果から推測し説明する問題は、県の正答率と同程度であったが、17.8%と低かった。また、磁石の極を確かめる方法やソーラークッカーで料理ができるわけなどの正答率も県の正答率と同程度であったが、44.2%と低かった。	・学習内容が生活の場面で生かされたり当てはまっていたりすることを、学習の中に盛り込み、学習内容と結び付けて考えたり推測したりしながら授業を行うことで、興味をもって主体的に学習できるようにする。また、興味をもちそうな課題を提示し、どんな実験の方法や手順で確かめられるか話し合う時間を設けたり、実際に実験してみたりするなど自主学習につながるような働きかけをする。
生命・地球	○この領域の平均正答率は市の平均と同程度である。 ○虫めがねの使い方の正答率は61.5%、方位磁針の使い方の正答率は74.1%である。これは、市の正答率よりも10ポイント以上高い。 ●ダンゴムシが昆虫かを体の特徴から判断しその理由を説明する問題は、市の正答率よりも7.5%低い63.0%だった。また、正午にできる影の方位や午後3時の影の位置を太陽の動きから推測する問題の正答率は50%に届かなかった。	・生命・地球に関する図書資料や映像資料を多く活用し、実験や観察したことの確実な定着につなげていく。 ・虫めがねの使い方、方位磁針の使い方等これまで学んだ観察や実験の方法はほぼ身につけているので、更に身近な課題を解決するために応用する力を育てたい。そのために、身につけた学習技能を生かして課題を解決したり新たな課題を見出したりする機会を設けるなどして、主体的に課題に取り組もうとする意欲を喚起させる指導の工夫をしていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習についての質問では、ほとんどの項目で肯定的な回答が県や市の平均を上回っている。特に「復習をしている」割合は高い。今後も、自主学習を工夫している取組を紹介するなどして、家庭学習への意欲をさらに高めていきたい。また、様々な場で家庭との連携を図り、家庭学習の充実を図っていきたい。

●読書についての質問では、平日の1日あたりの読書の時間については県や市と同程度であるが、1か月に読む本の冊数については、県や市が「11冊以上」と回答した児童の割合が高いのに比べ、「3～4冊」と回答した児童の割合が高い。今後は、読書への関心・意欲を高めるための手立てを考えて実践していきたい。

○学習についての質問では、「勉強していて、不思議だな・なぜだろうと感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」という問いに対する肯定的な回答の割合が、県や市を上回っている。また、「自分一人の力で課題を解決しようとしている」といった質問に対する肯定的な回答の割合も高い。このことから、学習に対して興味・関心をもち、意欲的に取り組もうとしていることが分かる。今後は、一人一台の端末も活用し、情報を集める技能をさらに高めることで、問題解決力をつけられるよう指導していく。

○●授業についての質問では、「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「クラスは発言しやすい雰囲気である」などの問いに対する肯定的な回答の割合が、県や市を上回っている。しかし、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」に肯定的に回答した割合は46%で市や県と比べて6ポイントほど低く、「自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した児童の割合も63%であった。このことから、児童が主体的に話し合い活動に取り組んでいるものの自分の考えを書いたり話したりすることに苦手意識をもっていることが分かる。今後は、書き方・話し方の指導と合わせて、書く・話す機会をこれまで以上に設けることで、自信をつけるようにしていきたい。

○学校生活での質問では、「学級の時間に、友達同士で話し合ってクラスの決まりなどを決めている」「学校での役割や係の仕事に責任をもっている」の肯定的な回答の割合が県や市を上回っている。今後も、一人一人のよさをクラスの中で認め合う場を増やすことで、自信をもって生活できるようにしていきたい。

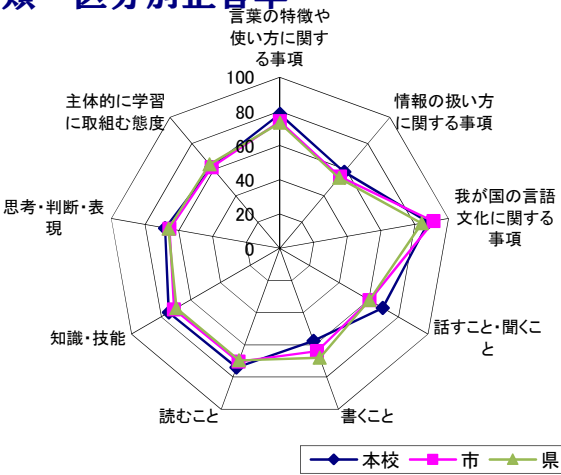
○情報についての質問では、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」に対する肯定的な回答の割合は、県や市より高い。興味関心が読書や新聞を読むなどに広がるようクラスでもニュースの話題を取り上げていく。

○家庭生活についての質問では、「家の人と学校のできごとについて話をしている」「自分は家族の大切な一員だと思う」「家の人と学習について話をしている」などの問いに対する肯定的な回答の割合が、県や市を上回っている。また、「携帯電話やスマートフォンを持っていない」割合は高く、「テレビやDVDを見る時間」「ゲームをする時間」は短く、「家での決まりや約束は守る」割合は高くなっている。このことから、家族間のコミュニケーションが良好で節度ある生活をしていることが分かる。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.5	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	58.5	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	88.1	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	69.4	60.6	60.4
	書くこと	57.5	63.8	68.0
観点	読むこと	74.0	70.4	69.6
	知識・技能	74.9	71.3	69.9
	思考・判断・表現	68.1	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	62.1	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

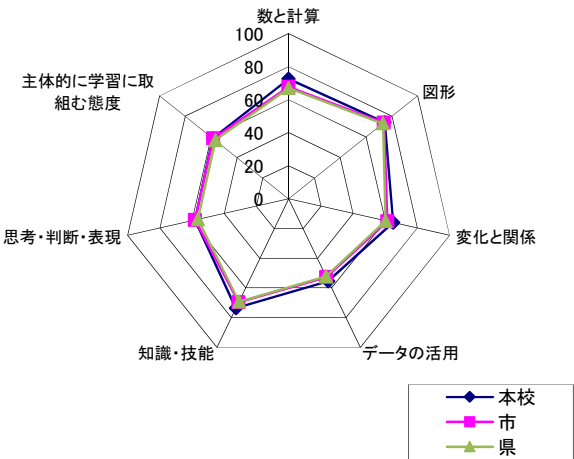
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○この領域の平均正答率は県の平均を5.2ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きは出題された問題のいずれも県の正答率より高かった。 ●連用修飾語の正答率は43.3%であり、十分身についているとは言えない。	・漢字の読み書きについては、文章の中で使えるよう、引き続き様々な方法で繰り返し学習ができるようにする。また、文法については、説明文や書く学習の中でも取り上げて指導し、どの言葉がどこにかかっているのかを意識させて読み取ったり文を書いたりできるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	○この領域の平均正答率は県の平均を4.7ポイント上回っている。 ○情報を理解し、文章をまとめて書く力がついてきている。	・特に2つの文章を比べて読む学習、説明文の読み取りの学習の中で、どこからどんなことが分かるのか、根拠を明らかにした読み取りをしていくとともに、読み取ったことを端的によりわかりやすく表すことにも意識を向けさせる。
我が国の言語文化に関する事項	○この領域の平均正答率は県の平均を3.9ポイント上回っている。 ○ことわざの意味を理解し、正しく使うことについての問題の正答率は88.1%であった。	・ことわざについて興味をもち、いろいろなことわざを調べたり、使ったりできるよう働きかけをする。
話すこと・聞くこと	○この領域の平均正答率は市の平均を8.8ポイント上回っている。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えながら聞き、意見の相違点を理解し、考えをまとめる力がついてきている。	・引き続き、聞き方話し方の指導をしていくとともに、他教科や学級活動の中で様々な話す機会を設けていく。
書くこと	○この領域の平均正答率は市の平均を6.3ポイント下回っている。 ●書く問題は、指定された長さで書くこと、二段落で書くこと、自分の考えとその理由を資料を根拠に書くこと、の3つの条件で書くよう指定されていた。どの条件の正答率も県平均より6.5%から13.5ポイント低かった。	・作文指導では、内容や目的に合った書くための材料を集め、それを整理し、構成を考えるといった手順を踏んだ指導を行い、他教科でも応用できるよう意識化を図る。その上で、文字数や段落などの条件を与え、書く経験を積み重ねていく。短い文から練習したり、書き方の型を示したりするなど工夫していく。
読むこと	○この領域の平均正答率は市の平均を3.6ポイント上回っている。 ○叙述を基に登場人物の気持ちを捉える問題の正答率は96.3%、文章の内容を捉える問題の正答率は83.6%で、いずれも県平均より7%以上高かった。 ●段落の関係を捉えているかを問う問題の正答率は41.0%であった。県の正答率と同程度であるが、十分身についているとは言えない。	・説明文の学習で、段落相互の関係を捉える際「しかし」「このように」「例えば」など段落をつなげる言葉に着目させたり、その段落の中心となる文を見つけさせたりすることで段落相互の関係を捉えられるようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.6	67.8	67.0
	図形	74.3	73.9	73.1
	変化と関係	65.0	61.4	60.2
	データの活用	55.4	52.7	52.1
観点	知識・技能	73.6	69.7	69.2
	思考・判断・表現	58.2	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	58.7	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

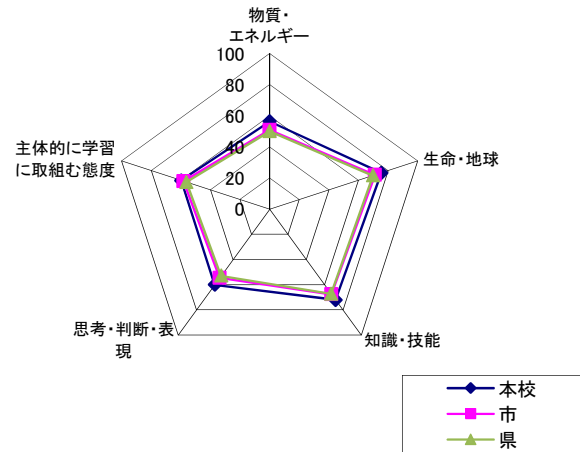
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○この領域の平均正答率は市の平均を4.8ポイント上回っている。 ○この領域の問題のほとんどが県平均を上回った。特に、億と兆の数や概数の表し方の正答率はいずれもほぼ85%以上で、よく理解しているといえる。 ●四則計算の順序に関する問題の正答率は60.4%で、余りのあるわり算の正答率は55.2%であった。	・計算の仕方や意味を考えたり説明したりする学習活動を大切にしつつ、四則計算を含め、早く確実に計算できるように練習を繰り返し行っていく。
図形	○この領域の平均正答率は市の平均と同程度である。 ○長方形や複合図形の面積についての問題の正答率は、それぞれ92.5%、83.6%で、ほぼ身についている。 ●1000円札のおよその面積を選ぶ問題の正答率は34.3%で県平均より6.5ポイント低かった。	・長さや重さ、面積については、日常生活の場面と結びつけて考えられるよう、様々な具体物を予想を立てて計測するなどして、実感を伴った理解ができるようにする。
変化と関係	○この領域の平均正答率は市の平均を3.6ポイント上回っている。 ○伴って変わる2量の関係について、一方の値からもう一方の値を求める問題の正答率は90.3%で、よく身についている。 ●伴って変わる2量の関係を式に表す問題の正答率は33.6%であり課題がある。	・変化と関係の学習は、児童にとっては理解しにくい領域である。特に、具体的な数字ではなく、□や○を使った式に難しさを感じる児童は多い。□や○を使うことに慣れさせていくため、身近な場面、簡単な計算を□や○を使って式に表す指導をする。また、2量の関係を捉えるために、問題場面を自分なりに図に表して考えたり、話し合ったりする中で、視覚化できる力をつけていく。
データの活用	○この領域の平均正答率は市の平均を2.7ポイント上回っている。 ○折れ線グラフを読み取る問題の正答率は、それぞれ60%から77%でおおむね身についている。 ●2つの折れ線グラフについて書かれた内容を理解し、その間違いをグラフの読み取りを基に説明する問題の正答率は27.6%である。これは、県の正答率と同程度であるが課題がある。	・グラフからどんなことが読み取れるのか話し合う活動を多く取り入れ、多様なグラフの見方ができるようにする。また、読み取ったことを書いて説明する活動や、書いたことを見直す活動を取り入れることで、端的に分かりやすく書く力をつける。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.3	50.8	50.0
	生命・地球	75.4	71.1	69.8
観点	知識・技能	72.0	67.6	67.2
	思考・判断・表現	60.0	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	59.7	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○この領域の平均正答率は県の平均を6.3ポイント上回っている。 ○「物の体積と温度」については、空気、水、金属の順に、温度による体積変化が大きいことが実験結果から判断することができるなど、よく理解されていた。 ●乾電池の向きによって電流の向きが変わること、電流の向きは検流計の針の振れ方で分かることを正しく答えられた割合は18.7%で県平均より高いが、十分理解されていない。また、他の単元においても、問題によって正答率が50%ほどのものが多いところがあった。	・実験の結果からどんなことが言えるのかを話し合ったり、図や絵で自分なりにまとめたりする学習活動の時間を確保することで、理解を深められるようにする。また、日常生活の事象と授業で学習したことを結び付けて考えられるよう、問題提起をしたり児童に考えさせたりするなどして、興味関心を高めていく。
生命・地球	○この領域の平均正答率は県の平均を5.6ポイント上回っている。 ○ヘチマの茎の伸びと温度変化の問題の正答率は86.6%で、実の変化についての問題の正答率は94.8%であり、よく理解されている。また、水たまりの水がなくなる理由や結露の現象についてもよく理解されていた。 ●満月の見える方位の問題の正答率は51.5%で、県平均より4.4ポイント低かった。方位磁針の使い方についての正答率も県平均よりは高かったものの51.5%で十分身についているとは言えない。	・生命・地球に関する図書資料や映像資料を多く活用し、実験や観察が難しい内容についての定着につなげていく。また、基本的な実験用具の使い方は、折に触れて確認し、確実な定着を図る。 ・自然の事物や事象についての問題を投げかけたり、疑問をもたせたりすることから興味を高め、学習したことをもとにした根拠のある仮設や予想を立てたり、話し合わせたりすることで、自分でも検証できる方法を示唆し、自由研究につなげる。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習についての質問ではほとんどの項目で肯定的な回答が県や市の平均を上回っている。今後も自主学習を工夫している取組を紹介するなどして家庭学習への意欲をさらに高めていきたい。また、様々な場で家庭との連携を図り家庭学習の充実を図っていききたい。

○読書についての質問では、平日の1日あたりの読書の時間が、「2時間以上」「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童の割合が市・県と比較して高くなっている。また、1か月に読む本の冊数についても、「11冊以上」と回答した児童の割合が高い。しかし、「1～2冊」と回答した児童も多いことから、読む児童と読まない児童に差がある。今後は、読書への関心・意欲を高めるための手立てを考えて実践していきたい。

○学習についての質問では、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて、不思議だな・なぜだろうと感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」という問いに対しての肯定的な回答の割合が、県や市を上回っている。また、「本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ている」や「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」といった質問に対する肯定的な回答も高い。このことから、学習に対して興味・関心を持ち、意欲的に取り組んでいる様子が分かる。今後も学習意欲を持続できるように、授業展開や学習環境の設定を工夫していきたい。

○授業についての質問では、「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」などの問いに対する肯定的な回答の割合が、県や市を上回っている。このことから、児童が主体的に話し合い活動に取り組んでいることが分かる。今後も対話を取り入れた活動を授業の中に取り入れ、自分の考えを深められるようにしていきたい。

○学校生活についての質問では、「先生は学習のことについてほめてくれる」「自分はクラスの人の役に立っていると思う」などの質問に対して、肯定的な回答の割合が県や市を上回っている。教師にほめられたり、クラスの仲間に認められたりすることで、安心感や自信をもって学習に取り組んでいることが分かる。

●情報についての質問では、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」に対する肯定的な回答の割合は、市を7.1ポイント上回っている。「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」に対する肯定的な回答の割合は、市をやや下回っている。社会の出来事に関心をもってニュースを見たり調べたりできるよう児童に興味をもたせるような工夫をしていきたい。

○家庭生活についての質問では、「家の人と学校のできごとについて話をしている」「家の人と将来のことについて話すことがある」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分は家族の大切な一員だと思う」「家の人と学習について話をしている」などの問いに対する肯定的な回答の割合が、県や市を上回っている。また、「携帯電話やスマートフォンを持っていない」割合は高く、「テレビやDVDを見る時間」「ゲームをする時間」時間は短く、「家での決まりや約束は守る」割合は高くなっていることから、家族間のコミュニケーションが良好で節度ある生活をしていることが分かる。

宇都宮市立豊郷中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
1話す・書く力の向上 2漢字の書き、構成、使い 方に関することや敬語など 言語事項に関すること 3数量や図形の基礎的な 事項の定着	1根拠を基に話す・書く。端的に、順序良 く、分かりやすく話す・書く。(授業のまと め、振り返り、自分の考えを表すときな ど) 2漢字は文章の中で使えるよう書く指導と 合わせて行う。 3繰り返し学習や家庭学習の工夫	1国語の「書く」領域の正答率は学年によって差が あり、十分身につけているとは言えない。 2漢字、言語事項については、ほぼ身につけてきた が、文法やローマ字に課題がある。 3数量の領域については、両学年とも改善が見ら れたが、図形に関しては十分ではない。